

歴史探訪 Part II - ⑱

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水 太郎

昨年から通い始めた駒沢大学(聴講生として)2年目の授業がはじまりました。1年目は、地誌学、人文地理学、仏教美術、古代史、日本近世史の5科目でありました。

今年度は、日本文化史、日本史特講、東洋史特講、外国史学文献史料講読、古文書研究の5科目であります。

①日本文化史は、奇しくも昨年度、近世史を熱く語ってくださったk教授でありました。前期と後期の末にレポート提出の課題が出されました。前期はスカイツリーの近くに最近オープンした「たばこと塩の博物館」にGW中に行って2,000字以内で書くこと、手書きは認めず、パソコンで。後期末の課題は、「横浜開港資料館」へ行って報告せよとの指示でありました。

「たばこと塩の博物館」については、強い思い入れがあり後述します。

「横浜開港資料館」は昨年の秋、「東海道ネットワークの会」例会で訪ねました。

②日本史特講は、明治初期から昭和戦後期(占領を経て独立を回復するまで)における日本の外交について史料を交えて講義されます。

③東洋史特講について 私には初めての体験で、大変興味があります。本講義は、中央アジアの歴史です。中央アジアとは、以前ソ連に属していましたが、独立して生まれたカザフスタン、キルギス(クルグスタン)、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン、アフガニスタン諸国と、黒海の西の小国群と、モンゴル周辺を指します。中央アジアは乾燥地帯が多く、今でも遊牧民が住んでいます。中央アジアを理解する為の4つのエッセンスは、1、遊牧2、イスラーム(宗教)3、オアシス4、テコルク(ことば)であります。

④外国史学文献講読について 本講義は中国の歴史書について学びます。古い順に、前四史、(史記130巻、前漢書100巻、後漢書120巻、三国志65巻)に続いて晋書、宋書～明史までの二十五史であります。冒頭の司馬遷が任安に報ずる書に謂えらく、(身腐刑に遭ひて而も隠忍していやしくも活くるは、世を没して文采、後世に表はれざらんことを恐るればなり)、私が思いがけず去勢される刑に陥れられて、しかも耐え忍びながら生きているのは、私が死んだ後も著作を後世に残したいからである)これを見て、歴史を編纂することは命懸けの事業であり、なんとドラマチックなことであるかと知り、歴史を学ぶことに強く魅了される思いがいたしました。

⑤古文書研究 江戸時代の古文書について学びます。

幕府—老中—町奉行—町役人—農民、商人等に向けた命令書の類で、大量に発行される為、くずし字がほとんどで、これに慣れ親しんで発行文書を読み解き、正しく理解することが本講義の目標であります。したがって、④外国史学文献史料講読と⑤古文書研究の2科目は予習復習が欠かせず、大変タイトな学習であると覚悟した次第であります。教授の勧めで『日本文化講義』、『崩し字用例辞典』、『角川 新字源』の3冊を購入しました。

「たばこと塩の博物館」について今から30年以上前のことですが、『サンデー毎日』に私にとって大変ショッキングな記事がありました。

江戸時代末期～明治初期の文明開化期、西洋文明を摂り入れるのに熱心なあまり、それまで大切に持っていた日本古来の芸術作品であった浮世絵等がないがしろにされ海外に流出しました。安藤広重や葛飾北斎等が浮世絵の作成に使った版木も同時に流出し、100年以上経ってその一部がボストン美術館で見られました。それらを借りてきて、今でも活動している摺師が試しに作成したところ、当時と寸分違わぬ美しい浮世絵が刷り上がり、「あっと驚いた」という記事でありました。浮世絵再現の実演を「たばこと塩の博物館」で実施していると知り問い合わせたところ、実演はすでに終了し、今は横浜高島屋で実演しているとのことでありました。早速出かけて行き、見事に刷り上がった作品を見て大変感動いたしました。

ここである疑問が湧いてまいりました。何故3つの欠点(1、燃える2、腐る3、狂う)を持つ木材(版木は桜材)で作った約10枚の版木に彫師が刻んだ原版を100年以上保存しておいて、果たして精巧な浮世絵が再現できたのか。そこで実演していた摺師に尋ねてみました。

決して完全な保存状態ではありませんでしたが、反ったり、縮んだりした版木に水分を与えたり、温めたりして修正するという隠れた苦心があったようです。以来、私は浮世絵の世界に引き寄せられ、歌川広重と葛飾北斎の東海道五十三次の画集を買って来て眺めていましたが、現地を自分の目で見たいという思いが湧いてまいりました。

ある休日の朝、一念発起して日本橋から三条大橋に向かって歩き始めました。その後、ご縁があって東海道ネットワークの会に入り、多くの仲間と出会い、街道探索と歴史探訪は今でも続いています。



歌川広重の行書版東海道 日本橋
出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>